資料２

いじめ問題の取り組みについて
－予防に焦点をあてて－

皇學館大学教育学部
渡邉　賢二
2022年3月24日

＜内容＞

Ⅰ．いじめの現状

Ⅱ．いじめの加害・被害と関連しやすい要因

Ⅲ．いじめの予防

Ⅳ．まとめ

Ⅰ．いじめの現状

全国：

小学校，中学校のいじめの認知件数は増加している。

H30年度：小学校425,844件，中学校 97,704件，高校17,709件

R元年度：小学校484,525件，中学校106,524件，高校18,352件

R2年度 ：小学校420,897件，中学校 80,877件，高校13,126件

いじめが解消している割合：77.4%

いじめ発見のきっかけ：

アンケート調査など学校の取り組み： 59.0%

本人からの訴え： 15.6%

学級担任が発見： 9.8%

（文科省，2021）

三重県：

R2年度：小学校：2,647件（R1；2,365件，H30；2,282件）

中学校：　794件（R1；　835件，H30；　623件）

高　校：　302件（R1；　230件，H30；　187件）

認知件数の多い学年：（多い順）小学5年生，2年生，3年生・・・

いじめ発見のきっかけ：

アンケート調査など学校の取り組み：

小学校；55.6%，中学校；39.2%，高校；41.1%

いじめの解消状況

全体：2,838件（75.4%）

小学校：2,043件（77.2%），中学校：551件（69.4%），高校（73.8%）

（三重県教育委員会，2021）

※いじめの解消は「被害者に対する行為が止んでいる状態が少なくとも3か月継続している」となっており、1月から3月に認知されたいじめについては、解消状況に反映されていません。

いじめの態様

①冷やかしやからかい，悪口や脅し文句，嫌なことを言われる・・・・・・47.3%
②仲間はずれ，集団により無視される・・・・・・・・・・・・・・・・・・11.1%
③軽くぶつかられたり，遊ぶふりをしてたたかれたり，蹴られたりする・・17.7%
④ひどくぶつかられたりたたかれたり，蹴られたりする・・・・・・・・・・ 4.0%
⑤金品をたかられる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2.0%
⑥金品を隠されたり，盗まれたり，壊されたり，捨てられたりする・・・・ 5.2%
⑦嫌なことや恥ずかしいこと，危険なことをされたり，させられたりする・12.1%
⑧パソコンや携帯電話等で，ひぼう・中傷や嫌なことをされる・・・・・・ 6.8%
その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3.8%

Ⅱ．いじめの加害・被害と関連しやすい要因（飯田，2021）

①子ども個人要因

・学習成績が低いこと
・攻撃に対する親和性が高いこと
・問題解決スキルが乏しいこと
・ADHDやLDの診断があること　など

②親子関係要因

・親子関係がよくないこと，コミュニケーションがとれていないこと
・子どもの管理・監督ができていないこと
・子どもの問題に対して制限や罰が決められていないこと
・養育者自身が高い攻撃性を示すこと
・暴力を肯定していること　など

③友人関係要因

・非行や攻撃性を示す仲間と親しいこと

・喫煙や飲酒などの問題行動が見られる仲間と一緒にいること　など

④学校環境要因

・ネガティブな学校風土である

・教員と子どもの肯定的な関係が大事にされていないこと

・いじめに関して明確な方針をもっていないこと

・懲罰的な行動ルール　など

Ⅲ．いじめの予防

①いじめに関する知識を共有し，自ら行動できるように備える

・学校長や学級担任による宣言
・いじめの標語やポスターの掲示
・いじめに関する講話や学習

・日常の学校生活（授業，給食の時間など）の中で指導する
　ほめる，認めるなど肯定的な関わり
・子ども自ら行動できるように，心理教育を実施する
・保護者にも理解してもらう，協力してもらう

②子どもと教員の良い関係を促す

・子どもと教員の良好な関係が重要

教員にいつも注意され，小言を言われているとストレスが高まる

そのストレスは弱い立場の子どもにむく

子どもは教員をモデルとして行動する…怒る，注意する行動が広がる

良好な関係 ➡ 肯定的な感情をうむ

・良好な学級風土（集団規範を育てる）

教員が子どもの好きなものに興味をもつ

楽しい時間を一緒にすごす

教員の自己開示　など

③子どもの社会性や感情調整スキルを育てる

・子どもが自分の気持ちや考えを周囲に伝え，気持ちよく生活する

↓

適切に人と関わるためのスキルを育成する必要がある

＜心理教育＞
ソーシャルスキルトレーニング，ストレスマネジメント
アンガーマネジメント，レジリエンス教育　など

援助要請…相談するスキルを育てる

Ⅳ．まとめ

・体系的な心理教育によるスキルの獲得や自他理解・自他受容

・学校生活での子どもに対する関わり（教員の賞賛や承認など）

↓

子どもの適応感の向上

（ソーシャルスキル，自己肯定感，友人関係，教師関係の促進など）

良好な学校・学級風土（学校全体での取り組み）

↓

いじめの予防